ナシの高品質果実生産支援
～さぬき讃フルーツ拡大を目指して～

■　ＪＡ香川県豊南地区梨部会　■

（西讃農業改良普及センター　松本勇一）

●対象の概要

豊南地区梨部会は観音寺市豊浜町で45名の生産者が30haを栽培している県下唯一のナシ産地である。

同町のナシ栽培は100年以上の歴史があり、「ホウナンの梨」として県内外から高い評価を得ている。特に主力品種である「幸水」と「豊水」の糖度12.5度以上の果実は、さぬき讃フルーツとして出荷され、有利販売に繋げている。

また、ナシと冬場のレタスと組み合わせた収益性の高い農業経営が特徴となっている。

●課題を取り上げた理由

平成27年には、春先の低温や収穫前からの長雨や日照不足の異常気象により、糖度の低下や収穫量が減少するなど、生産が不安定な状況であった。

そこで、普及センターでは、ナシの安定栽培や高品質果実の生産を目的に、低糖度対策として肥大調査による摘果指導により、高品質化を図るとともに、フェロモントラップを利用した防除指導を行い品質の安定を図ることにした。

また、生産者の高齢化と後継者不足により徐々に耕作放棄園が増加してきているが、一方で若い担い手も育っており、今後、産地の面積維持拡大のためには、担い手の経営面積拡大に向けた作業の省力化と高品質化が不可欠である。

そのため、ナシの早期成園化と省力化を行うため、ジョイント栽培を部会やＪＡ香川県西部果樹振興センターと連携しながら、活動に取り組んだ。

●普及活動の経過

１　ナシ選果データに基づく園地調査

ナシの選果データに基づき、特に糖度の低い園地を対象に、園地や樹体の状況、栽培管理等の調査を行い、部会役員とともに園地巡回を行い、品質向上を目指した。

２　定期的な生育調査と病害虫発生予察の実施による情報の提供

ナシの肥大調査は過去から継続的に実施してきており、部会及び果樹振興センターと連携しつつ摘果指導に役立てている。また、害虫のナシヒメシンクイやカメムシの発生予察を掲示板に記載し、情報の提供に努めた。

予察による適期防除の徹底

３　「ホウナンの梨」のＰＲと販売促進支援

平成26年に県内JA最大の産直市の開設があり、市場出荷から産直市での県内販売へシフトした。

また、「ホウナンの梨」のＰＲとして、直売所オープン時にさぬき讃フルーツ大使のイベントや産地交流会を支援した。

さぬき讃フルーツ大使による試食販売

４　ナシの早期成園化を目指したジョイント栽培の導入支援

神奈川県農業技術センターで開発されたジョイント栽培について、平成27年度は神奈川県農業技術センター、28年度は鳥取県園芸試験場で調査研修を行った。

その後、平成28年に生産部会で導入を決定し、苗木の育成やナシジョイント栽培の指導を行うとともに展示ほを設置した。

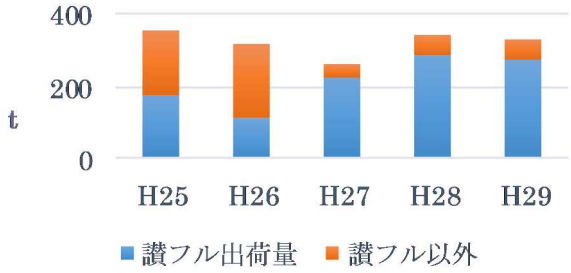
ジョイント用苗木育苗ほ

●普及活動の成果

１　低糖度園地は、共通して徒長枝の発生が多く、窒素が過剰傾向にあることや新梢の摘芯等の管理が不十分なことが判明した。そこで、部会などと連携を図りつつ、適正な施肥指導を行い、品質改善につなげた。

園地巡回による品質改善

２　肥大調査の結果をもとに摘果指導を行うとともに、フェロモントラップによるナシヒメシンクイの予察結果に基づき防除指導を行った結果、平成29年産は前年より小玉傾向であったが、さぬき讃フルーツ出荷は 274t、出荷割合は83.5%と増加した（図－１）。



図－1　「豊南の梨」讃フルーツ出荷量の推移

３　産直フェアにより「幸水」の出始めの単価が高い時期に「ホウナンの梨」をＰＲできた。

また、産地交流会により消費者に豊浜町のナシ栽培の現場やさぬき讃フルーツについて広く周知できたほか、生産者も消費者と交流することで、消費者ニーズを知ることができた。

産地交流会の様子

４　ジョイント栽培の展示ほを設置し、生育状況の報告をすることなどにより、新規生産者の呼びかけを生産部会と行った結果、平成28年の５ａから29年は生産者４名で35ａにまで面積拡大が図られた。また、来年度は50ａ以上に増加する見込みである。

●今後の普及活動の課題

ナシ産地維持・発展のためには、耕作放棄園を担い手へ集積することが課題である。そこで、ジョイント栽培の技術確立を図り、若手生産者へ普及させることにより、面積拡大を推進する。

さらに、ナシの高品質果実生産のためには、基本技術の励行と選果データに基づいた園地改善を行い、「さぬき讃フルーツ」の拡大を図る。